〔荻野版〕

黄色いチラシ

昭和62年2月1日号　№75

荻田印刷　☎ 41-8990

神奈中上荻野車庫前　毎月1日発行
編集発行人：荻田　豊　2万部折込み

法要ハガキ印刷承ります!!
回忌法要には3、7、13、17、23、27、37、50、100回忌までありますが、一般的には17回忌までが多いようです。　荻田印刷

異文化の世界に生きた明治生れの男
――田代の荻田政之助さん――

厚木高等学校会員名簿（昭和五十五年版）に、同窓会々長の茅誠司さん（元東大総長）が書かれた巻頭文で私と同姓の荻田政之助さんを知り、いつか調べてみようと思いながら数年が過ぎてしまいました。

『市民かわら版』一月一日号の新刊紹介コーナーで、上智大学教授の高山智博編著の『メキシコにかける夢』――荻田政之助と日系移民の世界――を知り、早速書店に出かけました。

平凡社発行のその本の帯に、――ドクトル・オギタの名で多くのメキシコ訪問者に親しまれた荻田政之助。海外雄飛の夢をいだき、十九歳でペルーに渡航。大正時代の南米移民の歴史をつぶさに体験し、メキシコに一市井人として定住した荻田は、終生、ロマンを求める青年のこころを失わない人であった。歯科医のかたわら、インディオ文化への関心を深め、日本人芸術家たちに憩いの場とインスピレーションを与えつづけた特異な人物の全貌を再現。あたかも一九八七年にはメキシコ移住九十年祭を迎える。――と書かれています。

今月から二ヶ月、この本を通して、当時の郷土の様子を垣間見ようと思います。

★政之助と編著者は

この本の編著者・高山智博と荻田政之助の関係を同書から引用しますと、

――私がメキシコ市の旧市街の一角、ウルグアイ街七十五番地にある荻田さんのお宅で世話になったのは、一九六〇年三月三日からであった。荻田夫妻は、百六、七十年前に建てられた三階建ての建物の奥にあるパティオ（中庭）に面した一、二階に住んでいた。外部の騒音から隔絶されたパティオのうらぶれた感じがすばらしい、と猪熊弦一郎画伯から言われたとのことで、パティオ側の窓ガラスは、何年もふかれたことがなかった。

その頃の荻田家は、まさに日本人芸術家のたまり場であった。私はこの家のメンバーになったということで、荻田家に集まった人びとから親切にされた。たとえば、市内見物にはじめて連れていってくれた人が、益子焼の浜田庄司の息子・篤哉さん、日曜日に映画にさそってくれた人が、当時、同じ建物の三階に住んでいて、現在はニューヨークで活躍している画家の河原温さん、といった具合だった。その他、私が荻田さんのところで出会った芸術家には、画家の鳥海青児、利根山光人、阿部金剛、安藤幹衛、金子真珠郎、彫刻家の高橋清、写真家の三木淳などの諸氏がいた。また若者では、現在もメキシコに滞在して絵をかいている竹田鎮三郎氏や、その後グァテマラへ渡った染織研究家の児島英雄氏などが荻田家でいっしょだった。こうした人びとが毎週土曜日の晩になると、食事に招待されては、荻田さんお手製の料理に舌づつみを打ちながら、話に花を咲かせていた。――

★故郷・愛川、そして家族

荻田政之助は、明治三十一年八月三日、愛甲郡愛川村田代一〇四七（上原）に生まれた。父は稲吉という。祖父・荻田清十郎の長女・カネが一人娘だったため、箕輪の酒屋、関根常次郎の二男・稲吉を荻田家の婿養子として迎えた。荻田稲吉は長い間、愛川村の村長として植林などに貢献があった人である。しかしながら当時の村長というのは名誉職で、金が入るよりも出ることが多く、その上、部下が使い込んだ分を弁済しなければならなかった。

したがって荻田家は経済的にかなり困窮していた。それでも父が教育熱心だったためか、兄の岩、弟の謙三や稔も厚木中学（現・厚高）を卒業している。

明治四十年、岩がアメリカに、政之助がペルーへ発った翌年の大正七年に息子・岩の呼び寄せで稲吉もアメリカに一時行くことができた。また謙三は父・稲吉の呼び寄せで大正八年に渡米した。

★厚木中学の十回生

政之助は明治四十四年、田代小学校を卒業し、厚木中学に入学した。厚木中学の十回生であった。

リード文でふれた茅誠司さんの文を引用すると、

――昭和五十四年十一月に私は家内と二人して、南米を十九日間にわたって旅をした。最初に飛行機を下りて泊ったのは、メキシコ・シティだった。

その二十五年前の昭和二十九年の十二月に私はこの土地を訪れた事があるが、厚木中学で私より一年先輩の荻田政之助さんという人が、この土地に居られることを聞いていたので、大使館で尋ねたら健在だとの事であった。荻田さんは、私の生まれた中津村の北の高峰村（間違い。田代上原）の出身で、厚中卒業後バンクーバーの歯科学校を卒えられ、あとでメキシコにきて歯科医として活躍しておられた。大使館の人達の話によると、あの戦争中から戦後にかけてメキシコ・シティの郊外で歯科医師として活躍され附近の住民に大変な信用があるとのことだった。私の行った一寸前に岡崎勝男さん

（裏面に続く）

法要会席料理
百合の膳……三、〇〇〇円
菊の膳……四、〇〇〇円
萩の膳……五、〇〇〇円
離れのお座敷から百二十名収容の大広間まで……
上荻野の郷
中津屋
☎四二―〇一二〇

土木工事・解体工事
足場工事・鳶基礎工事
外塀工事・ブロック工事
電装工事
ご用命は……
(有) 栗原工業
上荻野957―5
☎ 41-1540

インテリア総合家具の店
(株)ホームセンターワタナベ
半原線子合バス停前
☎四一―一二三一

引出物・贈答品・名入タオル
ギフト　井上
上荻野久保☎四一―一〇〇四

◎朝九時～夜九時迄営業
ホーム薬品
バス停東谷戸前☎四一―八九七七

確かな製品で
安心な施工
墓石・墓所外柵
鍛代勇石材店
厚木市下荻野九三七
電話四二―二六一三

土木工事
建造物解体工事
鉄骨工事・鳶土工
舗装工事
(有) 王子工業
厚木市上荻野八三三―一
電話　四一―三五五二

造園工事お気軽にご相談を
(株) 厚木植木
三田　☎四一―五四九一

中当紙は左記のスポンサーのご協力により発行されております

地元のコレクションシリーズ第1弾 『熊坂東以展』をご一緒に!!

この企画は、地元の皆さんの所蔵する熊坂東以画伯の作品を一堂に集め展示し、地元の皆さんにご覧戴こうという企画です。

只今、出品して下さる方を募っております。連絡先☎41―8990荻田印刷まで。

係の者がお伺いして作品を写真にとらせて頂きます。出品者、同様作品多数の場合は、熊坂画伯に選んで頂きます。

なお、会期は4月を予定しております。会場については、現在検討しております。次号3月1日号で発表致します。

皆さまのご協力をお願い致します。

（表面より続く）

（中第九回卒）が外務大臣としてこの土地を訪問された時、荻田氏は岡崎さんの顔を見るや泣きだしてしまったそうである。この二人は寄宿舎に入っていたので、クラスは違っても特に親しかったらしい。

私の場合はそれに懲りて呼ばなかったとの大使の話だったが、私が来たら渡してくれといってマヤ文化のものかと思われる土器を渡されたが、私は幾分不満だった。

今度大使館員に荻田さんのことを聞いたが知っている人はいなかったので落胆してしまった。――

★海外渡航を神に祈る

―大正六年の日記より―

一月一日　大正六年！　十代を過ぎて（数えの）二十歳の歳となりぬ。中学時代を終えてここに約一ヶ年、新たなる年と共に、清き心もて理想に向わんとぞ思う。

「歳の初めなれば朝早く若水をくみて神に捧ぐ」

十時頃より山に猟に（弟謙三と分家の吉時君と）。得る物なく遺憾なる事。一日より失敗、敢て殺生を好む我にあらねど一兎を逸したるは名残おし。

四月十二日　兄（岩）より手紙が来た。墨国に呼び寄せる手続きをはじめたそうだ。神仏に祈り地に哭く天に誓う言の葉の数々、未だ神護もあらざらんか。渡航する事も能わず爵々として広き野に高き山に彷徨するのみ。されど今日もまた神に祈りぬ、仏に線香も焚きぬ。

六月十一日　父、夕方芋ヶ崎より帰省。どうも渡米は難しそうだ。せめて墨国にでも行きたいもの。神よ真に祈る。神よ神よ。

六月十五日　一面の苗代の青い稲、緑流る山峡の谷川。谷と平地とをそなえた田代、田舎ではあるが俳句を作り、もののあわれを知る人も多なり。蚕の上蔟終る。

七月二十日　少しの雨もない、今日も又あつい。昼頃、厚中より謙三帰る。朝から百姓だ。南米行、その不可能なれば俺の前途は暗たんたるものだ。実際どうしていいやら、二十歳の青年涙欄干たり、嗚呼。

いかにせんのぞみの糸のたへだへにきれらん事のおそろしき哉

七月二十四日　父昨夜帰る。契約移民にて行く事に定めたそうだ。何でもよい、行けば俺の世界だ。口と腕で十分なのだ。一日陸稲の草むしりだ。

八月一日　謙三と父とは草刈に午前中行く、余は桑つみと湯を沸かしなどする。三時頃桑を摘んでたら伊従忠三氏来訪せらる。彼は余の渡米に関し熱心に事をしてくれる人、森岡移民会社にてやってくれるそうだ。九月二十五日、南米行の船で行くんです。

八月十五日　山口左近氏の宅に手伝いに行く。桑とりだった。小生宛、兄より手紙と金五百円が来た。私は熱い涙が落ちた。それは感謝の心であった。十年間一日の様に家を助け自分を救った兄には偉大な力がある。今度は小生がそれにならなければならない。

九月十八日　下検査の日で高峰小学校に行く。花柳病とトラホームの診断であった。余はさしたる事もなくｐａｓｓした。同年でも可成老いた人も見えるし小僧じみた奴もいる。帰りに箕輪のご祖父母（関根常次郎、タツ）の処へよった。茶を買ってもらい、帰りて旅券の事について愛川の田代巡査の処へゆく。未だ来ないとの事だ。しかし昨夜南米に行った夢を見たのは神夢ではあるまいか？　夕暮電報にて森岡より旅券が下付されるとのこと。明日行くのである。嗚呼、俺の望みも神の助けで出来そうだ、神はある、たしかにある。

九月十九日　橋本を朝の二番の汽車にて出発。森岡の会社に行くと手紙をわたした。それは本日旅券を下付するから一円の収入印紙と実印をもって行く事であった。十一時頃つくと早速旅券係の処へゆき応援所で少し待っていて許可となった。

九月二十三日　朝七時家を出発。一時間も橋本で遊んだ。横浜について小津君と夜二本呑む。お梅さんも美人だよ。明後日には出発だ。

九月二十四日　小津君と別れ、その前、父と稔と小津と四人で鈴長にて肉をくう。牛飲馬食せり、これも最後、あとは十年後です。

☆　☆　☆

大正六年九月二十五日安洋丸で一路ホノルルへ向けて出航。以下次号。

当世かわらばん ㊸

自分を中心に考えると

"もしもし元気ですか。と電話は身近なものですが、その電話番号を調べる際に気がつきました。私の住んでいる津久井で隣町の愛川町の電話番号を探すには、別の電話帳・県央版が必要になります。私の生活実感では、津久井や相模原の人は東京都町田方面よりは大和や座間、厚木方面との結びつきが太いと思われるのですが、電話帳は東京都町田・相模原版に収められています。町田の人は都心を向いて生活しているだろうから、津久井や相模原の電話番号は不必要なのでは…。

もっとも電話帳の区域割に限らず、どこで線引きするかは難しい。区域の境に近い人は隣の区域の方が便利であることが多いから。本人が必要な所の選べる電話帳があったら…。

㈲協和ホームサービス
☎（0427)84-0606

熊坂東以展

◆元旦から、熊坂東以展に出品してもいいよ、との電話が数本入りました。仕事の合間にそれぞれのお宅にお伺いして写真にとらせて頂いています。

◆神崎君三さん宅には珍しい絵がありました。それは、昭和二十一年に長女が生まれ――終戦後でお雛様がなかったので――東以さんにかいて頂いたという、お内裏様、三人官女、右大臣、左大臣の掛軸でした。また、二十四年元旦と書かれている恵比須、大黒の絵は、海底（おぞこう）和紙が使われていました。興味ある発見です。

◆屏風にしたら素晴しいだろうと思われる四季の絵を所蔵されている方もいらっしゃいました。牡丹に蝶（春）、立葵（夏）、菊花に小禽（秋）、南天（冬）とあり、春の牡丹以外は絹本でしたので、その訳けを東以さんにお尋ねすると、牡丹の花弁は紙の方が表現し易いからとのことでした。ここでも一つ勉強になりました。

◆当初、会場は公民館でと考えていましたが、日本画であり、また院展入選の大作でなく、軸物を中心とした小品を予定していますので、床張りよりは畳の方がふさわしいと考え、個人のお宅の日本間をと、荻野地区で数軒打診しましたが、どうも芳しくありません。そこで今、第三案を検討中です。

◆それにしても、自前のイベントハウスが欲しい。愛川と厚木の境の館山に早く『沓掛茶屋』を建てたいのだが、年末ジャンボも初夢宝くじもハズレてしまった今、残る手立ては本業を活かして贋札を……。お、、クワバラクワバラ。

『黄色いチラシ』情報

投稿大歓迎!!　どしどしお寄せ下さい。

昨年の中村妙心さん、小島日仁さんの投稿記事は好評でした。限られたスペースのため毎月掲載することは出来ませんが、今年も続けたいと思います。上手な文章より、筆者の体温の感じられるような記事を希望します。投稿お待ちしております。

また、愛川町・厚木市内にお住いの方が発行された書籍・新聞等や当地に関係ある事跡等が掲載されているものを収集しています。実費買上げ致しますので、ご連絡、ご紹介下さい。

『黄色いチラシ』編集室☎41―8990

『黄色いチラシ』の
イベント・ハウス!!
―沓掛茶屋（くつかけちゃや）―

愛川町と厚木市の境、国道412号平山坂の織戸組砕石場跡地に『黄色いチラシ』のお店・沓掛茶屋を計画しています。古い農家を移築して、各種の催し物の出来る施設をと考えています。移築可能な住宅や石仏、古民具等ございましたら是非ご紹介下さい。また不要となりました庭木・庭石等ございましたらご一報下さい。よろしくお願い致します。

『黄色いチラシ』編集室☎41―8990

☆特進教室紹介　その⑩☆

今月は、中学部の「組分け試験」についてお話します。

☞組分け試験について☜

当教室の中学部は学力別に4クラスに分かれているため、各学期毎に2回ずつ組分け試験が実施されます。試験後上位の者から、ＡＳ組(厚木高校進学クラス)、特Ａ組(受験科)、Ａ組(応用科)、Ｂ組(基礎科)に組み分けされます。この試験は、学校の定期試験の直前の日曜に、英語と数学の2教科で行われます。また、この試験は、学校の中間試験・期末試験の模擬試験となっていますので、試験後に行われる解答の解説では、問題の解き方や間違いやすい部分の詳しい説明がなされます。

国語・理科のクラスは、学校の定期試験の前の週の授業において、学校の試験と同範囲の実力試験が実施されます。

（次回は、本年度の「受験高校」についてお話します。）

特進蔦尾教室 ☎42-1377

黄色いチラシ

平成23年7月1日号　No.368

荻田印刷 TEL FAX 241-8990

1981年1月創刊　毎月1日発行

編集発行人：荻田　豊　上荻野車庫前

名刺
チラシ
見積書
納品書
請求書
領収書
封筒
各種
ポスター
新聞
シール
ゴム印
印鑑
承ります

明王嶽からの展望

小島　瓔禮

半原の細野の中細野に屋敷があった染矢家には、奥書に寛文五年（一六六五）五月とある『今大山縁起』（『神奈川県史』資料編8、一九六番）が伝わっていた。同じく細野の塚原にあった今大山不動院と号した清瀧寺の縁起である。『新編相模国風土記稿』巻五十八「半原村」の清瀧寺の記事にいう、同年成立の縁起と同じものであろう。

清瀧寺は奈良の東大寺を開いた良辨を開山とする寺院であったが、明治二年の神仏分離のとき、住職の恵浄が還俗して前田蔵人と称して半原神社の神職になり、廃寺になった。現在も跡地には、住職の墓碑などが残っている。

この染矢理右衛門家は、江戸時代には半原村の名主を世襲していた旧家である。良辨の父親の染屋太郎大夫時忠の子孫であると伝え、良辨の開いた清瀧寺の信仰を守るために、鎌倉時代に鎌倉から来住したという。

かの大山（阿部利山）の大山寺と本山争いをしたとか、その背面鎮護であるとか伝えるように、大山寺の『大山縁起』には、清瀧寺と共通した由緒がみえている。大山寺も開山は良辨で、やはり鎌倉郡由伊郷の人、俗姓は漆部氏、相模国の良将染屋太郎大夫時忠の子とある。『新編相模国風土記稿』には、両寺とも本尊は願行作の不動とあり、大山寺は願行を中興開山とする。願行は、諱を憲静といい、京都の泉湧寺の第六世である。後宇多天皇や後三条天皇にもかかわり、永仁三年（一二九五）に没している。清瀧寺も、そのころ大山寺とともに興隆したのかもしれない。

清瀧寺の『今大山縁起』には、寺院周辺の様子を描いている。東には塩竈の滝がある。七丈余の瀑布で金剛滝といい、胎蔵界の滝に対するという。これはいまの塩川滝の別称である。古く八菅山修験の天文十五年（一五四六）の「神分諸次第」（愛川町古文書調査会ほか編『愛川町郷土博物館企画展示基礎調査会報告書』第一集、愛川町教育委員会・二〇〇〇年）に「五番　滝」とみえるように（六頁）、山伏の行所であった。

嘉永二年（一八四九）の『愛甲郡半原村明細書上帳』（青山孝慈・青山京子編『相模国村明細帳集成』第二巻、私家版・二〇〇一年）には、塩川滝と地蔵滝と二つの滝をあげ、「別当清瀧寺持」と記す（四七一頁）。滝は、清瀧寺の管轄する霊場であった。また西には明王嶽があるという。山は抜きん出て、憤怒の姿で明王があらわれているとする。方角からみて、明王嶽は仏果山にちがいない。

大山寺の『大山縁起』の山中の描写でも、最後は塩川滝界隈におよんでいる。丹沢山地の表尾根をまわったあと、「石遅草嶽」が登場する。「遅草」は「ちさう」と読むと、「ちざう」になる。「石地蔵嶽」である。高さ三丈余の巌洞があり、岩戸の前の石壇に正身の不動明王が座っているとある。このあとは滝に続くから、石遅草嶽も仏果山ないしはその連山である。不動明王にみたてているからには、『今大山縁起』の明王嶽と同一の山とみてよかろう。滝は、両部の滝と名づくという。七丈余の滝で金剛界の滝とし、胎蔵の滝に対するとある。このあたりは、『今大山縁起』の書き方に共通している。

『今大山縁起』の表現との照応から、『大山縁起』の石遅草嶽以下の部分を、塩川滝周辺の聖地と解いた城川隆生さんの発見で（前号同書・五〇頁）、われわれは安心して大山寺と清瀧寺の密接な関係を、想定することができるようになった。『今大山縁起』には、大山寺が荒廃したのでここに移して今大山と呼ぶともある。塩川滝の上方のゆるやかな斜面を大山平といい、大山寺の不動尊を勧請したところという地元の伝えも、それなりに意味が出てくる。

大山寺の『大山縁起』の現存本は、慶長（一五九六年）以前の写本の系統と推定できる。染屋太郎大夫時忠のことはすでに『詞林采葉抄』（一三六六年成立）にもみえ、『大山縁起』の成立が鎌倉時代までさかのぼることを期待していた。『大山縁起』に、大山が大住・余綾・愛甲の三郡の境であるというのも、『倭名類聚抄』（九三一～九三八年成立）以前からのことで、これら三郡を中郡と称した小田原北条氏の時代よりは古い証拠になる。

城川隆生さんも着目した「長井貞秀書状」（『神奈川県史』資料編2・一五八三番）にいう、大山参詣に関連してみえる「縁起一巻」が、この『大山縁起』である可能性は少くない。書状の推定年次の徳治二年（一三〇七）に、現存本『大山縁起』が存在したとすれば、清瀧寺をめぐる歴史は、大山寺とのかかわりから、十三世紀にまで引きあげることができる。この『大山縁起』は、願行が中興になったときの成立にもみえる。

仏果山からは、甲斐・信濃の山々や関東一円が展望できるという。数年前の新年早々に、城川隆生さんの案内で、私もはじめて仏果山に登った。かすみがかかって見晴らしはよくなかったが、南西には大山がすぐまじかに見えた。石遅草嶽に出現する不動明王とは、不動明王をまつる大山の姿のことではないかと城川隆生さんはいう（前号同書・六一頁）。この眺望が、仏果山の宗教的価値なのであろう。

石地蔵嶽と呼ぶからには、仏果山の信仰は塩川滝と並んでみえた地蔵滝に結びつくはずである。地蔵滝は地元では胎蔵界滝ともいい、金剛滝を称する塩川滝と対をなす。古く大山修験が、石遅草嶽を両界曼荼羅胎蔵の大十二院の地蔵院に、あてていた時代があったのかもしれない。（写真の道標は、両向地区市の田の辺の神仏と共に立つ）

―次回は「矢筈山へのあこがれ」―

◇

こじま・よしゆき

民俗学・日本古典文学専攻

琉球大学名誉教授　半原在住

「ヒオウギお花見会」7月17日（日）館山（やかたやま）で開催！

ヒオウギ育成場の開花に合わせて

◇日　時　7月17日（日）

午前10時～午後3時

小雨決行（荒天18日に順延）

◇会　場　館山（やかたやま）

国道412号線平山坂上

織戸組採石場入口上

本厚木駅北口半原行き乗車、平山坂上バス停下車、徒歩3分

◇育成場のヒオウギのお花見

平成16年8月の月例登山の際、高取山頂に一輪のヒオウギが咲いていました。

その後、古民家岸邸や松石寺などにあることが分かり、17年秋に地元の旧家から荻野富士産末裔の種をいただき、18年より館山で育てて増やしています。

◇バザー、ヒオウギ苗や絵はがきなど販売

バザー…当会や当紙支援者提供の品々

ヒオウギの苗…1ポット100円

西山の絵はがき4枚セット…300円

◇お抹茶で一服

ヒオウギの実・ヌバタマを模した京都の和菓子烏羽玉付き300円

◇工芸作家作品展示即売会

藍染めの安齋蒼慶氏・陽窯の菊田明氏

◇主　催　西山を守る会・黄色いチラシ

◇問合せ　☎241－8990　荻田印刷